

一般国道16号八王子バイパス 土砂災害における広報対応

尾関 遥

関東地方整備局 相武国道事務所 計画課 (〒192-0045 東京都八王子市大和田町4-3-13)

相武国道事務所では、大雨に伴う事前通行規制区間2箇所（大垂水区間・相模湖区間）を含む、国道16号・20号合わせて延長約100kmを管理している。

令和5年6月2日（金）台風2号に伴う降雨の影響により、国道20号の事前通行規制区間2箇所で行き止まりを行っていたところ、6月3日（土）午前1時頃に国道16号八王子バイパスで土砂崩落が発生し、鎌水ICから坂下交差点間で上下線全線の通行止めを行った。

本稿では、災害発生から通行止め解除までに実施した災害時の広報についてご紹介するものである。

キーワード 国道16号, 土砂災害, 通行止め, 広報, 情報発信, X (旧Twitter), 建設会社

1. はじめに

相武国道事務所は、東京都西部及び神奈川県北部の幹線道路網の軸である、一般国道16号（延長52.9km（うち、八王子バイパス10.4km））及び20号（延長53.8km（うち、八王子南バイパス2.6km））合わせて総延長106.7kmを管理している。そのうち、台風などによる大雨により降り始めからの連続雨量が150mmを超えた場合、道路を利用する方々の安全を確保するため、通行止めを行う区間が、大垂水区間（L=4.8km）及び相模原区間（L=1.5km）の2区間ある。（図-1）



図-1. 国道20号事前通行規制区間

例年6月から9月は、台風の影響により基準値を超える大雨が降ることが多く、通行止め等の対応を行う目的で事務所が災害体制に入る。当課は広報班として、記者発表及びホームページ掲載等のSNS対応を行うものである。

令和5年6月2日（金）、台風2号の接近に伴う降雨の影響では、国道20号の事前通行規制区間2箇所で行き止まりを行っていたところ、6月3日（土）午前1時頃に国道16号八王子バイパスにおいて土砂崩落が発生し、被災者が

いる模様との一報が入った。職員一同の緊張感が高まり、人命に関わることがないことを祈りつつ、災害対応に突入した。

本稿では、災害発生後に実施した災害時の広報対応に絞りご紹介するものである。

2. 相武国道事務所で行った災害時の広報

被災した国道16号東京都町田市相原町地先（図-2）は、24,240台/日の交通量があり、神奈川～東京～埼玉～千葉と首都圏を環状でつなぐ重要な幹線道路である。被災後すぐに鎌水ICから坂下交差点間でランプ車線を含む上下線全線で通行止めを行っていたので、復旧を急ぐとともに、地域住民や道路利用者等へ丁寧な広報をすることが重要であった。



図-2. 位置図



図3. 被災状況（6月3日14時時点）



図4. 被災状況（6月3日9時時点）

(1) 災害発生直後～道路啓開（緊急復旧）完了

災害発生直後は、台風接近及び深夜帯という理由から交通量は多くなかったものの、交通量が増えてくる朝の時間帯に備えて、被災状況や通行止め区間といった災害の基本情報だけではなく、迂回路を図示した広報を実施した。

土砂災害の状況がテレビやネットニュースで報道されたほか、SNSを通して災害の被災状況が拡散された影響もあり、X（旧Twitter）の投稿の閲覧数が17万人を超える状況となった。

被災箇所近くにお住いの住民の方や道路利用者が何を知りたいのか考えながら、道路啓開及び緊急復旧作業の過程、通行止め解除の見込み・本線の一部通行止め解除に関して、X（旧Twitter）を用いて随時発信した。また、X（旧Twitter）にて投稿する際、より広範囲のSNSユーザーにリーチ可能であるハッシュタグ「#」を文中で活用することにより、140字という文字数制限がある中で効果的に情報発信をすることができた。



図5. X（旧Twitter）投稿事例①

(2) 道路啓開完了～本線通行止め解除

地域住民や道路利用者からは、一日でも早く本線の通行止めを解除することが望まれており、災害発生直後から昼夜を問わず継続して土砂撤去及び土留め壁設置を行っていた。その状況をX（旧Twitter）において定期的に発信することにより、地域住民や道路利用者へ向けた、復旧作業の進捗状況の可視化につながった。

また、本線の通行止め解除後には、実際に本線を車が通行している様子を撮影した動画をX（旧Twitter）で投稿することで、それを見た人が解除された状況を認知していただく工夫（見栄え・表現）を行い、昼夜を問わず復旧作業にご尽力いただいた建設会社の方への感謝を発信した。



図6. X（旧Twitter）投稿事例②

(3) 全線通行止め解除まで

本線の通行止め解除以降は、残り1車線であるオンランプ車線の通行止め解除に向けて、応急復旧作業を進めている様子をX（旧Twitter）にて情報発信を行った。その際、復旧作業の変遷が投稿を見ていただく人に伝わるように、毎回同じアングルで撮影を行い、写真内に撮影した日付を記載して投稿した。

また、土砂災害復旧関連のX（旧Twitter）の全投稿について、頭の部分に「#国道16号 #八王子バイパス 災害復旧情報」と記載することで、投稿すべてに一貫性を持たせるとともに、X（旧Twitter）の相武国道公式ページで投稿を見た時やハッシュタグ検索でヒットした時に、一目でわかりやすいように工夫した。

3. 災害対応して頂いた各社の方への感謝

今回の災害対応においては、被災後わずか40時間で本線の一部を通行止め解除し、316時間後（約2週間）には本線（オンランプ車線を除く）の通行止めを解除することとなった。

これには、相武国道に限らず、復旧作業にご尽力いただいた計17社の建設会社との協力が不可欠である。さらに、17社の建設会社の方々が昼夜連続で作業いただいたおかげであることから、協力していただいた建設会社への感謝として、日本の建設業界の底力を世間の皆様へアピールすべく、本線の通行止めをしたタイミングで、今回の災害対応の経緯についてまとめたものを事務所ホームページに掲載した上、日建連（日本建設業連合会）へ情報提供を行った。

作成にあたっては、冒頭で「事務所長の思い」、「本線通行止め解除までの経緯」、「災害対応に従事いただいた企業の紹介」を記載した。中でも、「災害対応に従事いただいた企業の紹介」では、各社の活動写真を掲載した上、各社の協力を得て「各社からのコメント」を載せることとした。

この災害対応経緯をまとめたものについては、事務所ホームページに掲載したほか、動画形式に変換し、庁舎1階に設置しているデジタルサイネージに放映することで、来庁した建設会社の方に見ていただき、災害対応への協力に対する感謝が伝わるよう工夫した。



図-7. 災害対応経緯の広報事例



図-8. デジタルサイネージにて放映している様子

4. まとめ

今回の災害に関する広報対応を通じて、特に災害対応経緯について、事務所ホームページへの掲載や日建連（日本建設業連合会）への情報提供等をしたことにより、建設業界から「こんなにしていただいた事務所はほかにはない」「感謝の気持ちが伝わる広報をしていただいた」との感謝の声をいただき、広報対応したことへの達成感及びやりがいを感じた。

また、今回の広報対応に関して、X（旧Twitter）への投稿実績は表-1のとおりであり、閲覧数に関しては約60万人にも上った。この実績からも、災害時にX（旧Twitter）を用いた情報発信は効果的であったと実感し、災害対応に限らず他のイベント等でもX（旧Twitter）を積極的に活用していこうと思う。

表-1. X（旧Twitter）投稿実績

ポスト(ツイート)数	16
いいね数	2,822
リポスト(リツイート)数	2,184
コメント数	28
閲覧(インプレッション)数	586,084

※令和5年12月19日時点

この災害対応を契機に、広報を行う上での投稿のタイミング、内容の見栄え及び表現力等の知見が得られた。その結果、通常業務においてもその知見を活かすことができるようになった上、広報対応のスキルアップにつながったものである。